

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2297 号

Increase in Fibrinogen Degradation Product Levels 5 Days after a Traumatic Insult

外傷経過において FDP は 5 日目に再上昇する

長澤 宏樹 (ながさわ ひろき)

博士 (医学)

論文内容の要旨

外傷患者において、来院時の FDP (fibrin/fibrinogen degradation products) が上昇しており、重症度や死亡率などに関連があることはこれまでも報告されている。しかし、入院後にこの FDP の値がどのように変動するかについては報告がない。そこで今回、外傷患者における FDP 値の変動について入院した中等度から重症の外傷患者を対象に、後方視的に検討した。対象は 2017 年 9 月から 2018 年 3 月まで、順天堂大学医学部附属静岡病院の救急診療科に入院し、入院後 FDP 値を計測した症例とした。期間中、453 例の外傷患者を診療し、うち 222 例が入院となった。このうち 158 例が 5 日間以上の入院期間となったが、118 例は継続した FDP 値の計測がされていなかったため、対象は 40 例となった。この 40 例の FDP を解析したところ、入院時に高値を認めていた FDP 値は第 4 病日にかけて徐々に低下するが、第 5 病日に上昇を認めていることがわかった。さらに第 2 病日から第 7 病日にかけて感染症の合併や手術を行った症例を除いた 21 例でも同様に解析したが、同じような結果となった。5 日目に FDP 値が再上昇する可能性として、深部静脈血栓症や感染、播種性血管内凝固症候群などの合併症が起こったこと、また外傷により形成された血腫の再吸収の影響などが挙げられたがいずれも明確な根拠はない。この FDP の変動について、メカニズムは現時点では不明だが、解明されれば臨床的な鑑別に役立つ可能性が高い。